

令和6年11月

霜

あ お ぞ ら

月

第405号

鹿屋市青少年育成センター

鹿屋市 共栄町 20-1 TEL 31-1138

(鹿屋市教育委員会 生涯学習課)

「家庭読書（ウチドク）、地域読書（マチドク）のススメ」

鹿屋市立細山田中学校 校長 田之上 由美

〇〇の秋です。読書を楽しんでいらっしゃいますか？

私には、忘れられない子どものころの二つの読書体験があります。

一つは、就学前の私たち姉弟を寝かしつける当番だった父が、毎晩読み聞かせをしてくれたこと。『カロリーヌの冒険』『アラビアンナイト』……現実世界では体験できないお話に、毎晩ワクワクして、眠るどころではなかったのを覚えています。

もう一つは、小学校5・6年生の担任の先生が、『ガラスのうさぎ』を読み聞かせしてくださったこと。新採だった先生は、毎日の朝の会の最後に、少しずつお話を読んでくださいました。続きはどうなるのかな？と気になるようなまとまりに絶妙に分けての読み聞かせに、朝が待ち遠しくてなりませんでした。平和な時代を生きる私と同じ年齢の主人公が、戦争中どんな思いで生きていたかを、読書を通して体験させ、平和について考えさせたかったのではないかと思います。今でも、先生に、「先生の読み聞かせが、今の私を育ててくださったのだと思います。」と話すことがあります。読書を楽しむ幸せな子どもでした。

親や先生方に教えてもらった読み聞かせや読書の魅力を伝えようと、教師になった私が、おはなし会をするようになったのは、三十代半ばのころ。種子島の小規模中学校に赴任し、読書指導と学校図書館運営を一人でやることになったときでした。

当時の校長からいただいた『葉っぱのフレディ』を読み聞かせしたところ、生徒からそのことを聞いた保護者がおはなし会に協力してくださるようになりました。翌年、校長は紙芝居、教頭は大型絵本、男性職員でパネルシアターとエプロンシアター、女性職員で人形を使ったお話とストーリーテリング、と教職員全員でのおはなし会ができるまでになりました。翌々年は、生徒が自分たちで読み手をやりたいと言い出し、校内のみならず、校区内の二つの小学校でのおはなし会が実現しました。読書を楽しむ幸せな教師でした。

現在は、全校朝会で季節に応じたブックトークを行っています。また、小学校では読み聞かせボランティアの方々が定期的におはなし会を実施してくださいます。地域では細山田分館がまちなか図書館を開設し、鹿屋市では「ほたる号」（移動図書館車）や『デジとしょ KANOYA』（かのや市電子図書館）を運用するなど、読書環境を整えてくださっています。校長になっても読書を大いに楽しんでいます。

今年は、「親子読書運動」を日本全国に広めた 椋 鳩十 先生の生誕120周年記念の年です。「親子読書運動」とは、親と子の、あるいは、子ども同士のあたたかな交流を通して、豊かな読書の世界を子どもたちの中に広げていくことを目指し実施してきたものです。今年は、家庭で、学校で、地域で、人の温かさを感じながら読書を楽しむ秋にしてみませんか。